



心のブレーキをかけよう



本日の全校集会でお話しした内容を紹介します。

休み時間などにじゃれあってふざけているみんなを見ると「危ないなあ、ケガをするなよ」と思います。相手が傷つくようなきつい言葉を耳にすると「そのうち冗談ではすまなくなるぞ」と思います。本当にケガをしてからでは遅い、本当にケンカになってからでは遅いと思って先生方も声をかけてくれていると思いますが、「だいじょうぶ、だいじょうぶ、ふざけているだけだから」なんて声が返ってくる人が多いような気がします。みんなはどうですか？

1つの事故や事件が起きる時は、「やめておけばよかった」という赤信号が29個あり、「注意すればよかった」という黄信号が300個ある。これは、「**ハインリッヒの法則**」と言われます。アメリカの保険会社に勤務していたハインリッヒ氏は、重傷以上の事故が1件起きる背景には、軽傷になる事故が29件起きており、さらには、あやうく事故になるような「ヒヤリ」「ハッと」するような出来事が300件あるという「**1:29:300の法則**」を発見したのです。いけないことだと分かっているんだけど、面白いから、なかなか止められない。やめようやめようと思っているんだけど、さそわれると断れない。

「あぶない」とドキッとした時は注意するんだけど、すぐ忘れてしまう。こんなことがよく起こっていませんか。世の中のニュースでも、カッとなって引き起こされた事件や、ささいなミスによる事故がよく見られます。

「あと少しがまんすれば、こんな事件にはならなかったのに・・・」

「あと少し注意すれば、こんな事故にはならなかったのに・・・」

と悲惨なニュースの度に思います。みんなもあやうくケガをしそうな「ヒヤリ」とする出来事があった時、「ああ、大きな事故にならなくてよかった。これは『もう止めておけ』という合図だな」と思えるようになってほしいと思います。

ちょっとした我慢、ちょっとした注意、ちょっとした思いやり・ちょっとしたがんばりが、みんなの生活を安全で楽しいものにしてくれるのです。

自分の心にブレーキのかけられる中学生になってほしいと願っています。